

<PRESS RELEASE>

報道関係者各位

2023年9月15日（金）

一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY

**山崎博の幻の大作を大スクリーンで鑑賞できるチャンス。
『特別上映会：山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク』
チケット販売開始のお知らせ。9月19日(火)正午から**

一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY（東京都中央区）は、2023年10月7日（土）～29日（日）の期間中、東京駅東側エリア（「東京スクエアガーデン」、「東京ミッドタウン八重洲」、「国立映画アーカイブ」他）で展開される、屋外型国際写真祭『T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2023』にて開催されるイベント『特別上映会：山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク』のチケットの販売が、9月19日(火)正午から開始されます事をお知らせします。なお、チケットは無くなり次第終了です。



イベント『特別上映会：山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク』告知用バナー

◆イベント『特別上映会：山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク』

｜開催概要

企画名：『特別上映会：山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク』

内容：山崎博写真展『10 POINTS HELIOGRAPHY 82/23』と萩原朔美展『70's Experiments』

の開催に合わせ、特別上映会を実施します。

上映作品：山崎博映像作品：《HELIOGRAPHY》（1979）、《観測概念》（1975）、

《VISION TAKE 1》（1973）、<MOTION>（1980）

萩原朔美氏映像作品：私映画《山崎博の海》デジタル（2018）

トーク登壇者：萩原 朔美、石田 哲朗

日時：10月21日（土）14:15～16:05(予定)

会場：国立映画アーカイブ B1 階 小ホール（定員 151 名、全席指定席）

チケット料金：一般：1,500 円 / 高校生・大学生・65 歳以上：1,000 円 / 小中学生：500 円 / 障害者手帳をお持ちの方（付添者は原則 1 名まで）・国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ・優待：500 円

チケット購入：

1. 国立アーカイブ HP：<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/yamazaki/>
2. 国立アーカイブ窓口：開映 1 時間前から 5 分前まで若干数販売（座席選択不可）

販売開始日：9 月 19 日(火)正午から開映 15 分前まで。無くなり次第終了。

共催：国立映画アーカイブ、一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY

協力：東京都写真美術館

*本イベントは有料です。上映開始後、途中入場やトークのみのご参加はできません。

*チケットの購入方法等の詳細は、「国立映画アーカイブ」の公式 HP をご参照ください。

<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/yamazaki/>

｜登壇者のご紹介

— 写真家 —

萩原 朔美（はぎわら さくみ）



1946 年東京生まれ。祖父は詩人萩原朔太郎。母は小説家萩原葉子。寺山修司主宰「演劇実験室・天井桟敷」で役者・演出家として活躍。現在、前橋文学館館長、多摩美術大学名誉教授、金沢美術工芸大学客員教授、前橋市文化活動戦略顧問。映像作家。著者に、『時間を生け捕る』『思い出の中の寺山修司』『定点観測』『劇的人生こそ真実』『砂場の街のガリバー』『死んだら何を書いてもいいわ』その他多数。

— キュレーター —



石田 哲朗（いしだ てつろう）

1968 年大阪生まれ。1995-2002 年東京都現代美術館勤務。2003 年から現職。教育普及プログラムと展覧会企画を手掛ける。主な展覧会は「川内倫子 照度 あめつち 影を見る」（2012 年）、「山崎博 計画と偶然」（2017 年）、「あしたのひかり」（2020 年）、「野口里佳 不思議な力」（2022 年）ほか。

◆山崎博写真展『10 POINTS HELIOGRAPHY 82/23』

企画名：山崎博写真展『10 POINTS HELIOGRAPHY 82/23』

内容：写真家・映像作家の山崎博が 1982 年に撮影・発表した写真作品。2 日間にわたり都内 10 カ所で同時に太陽を長時間露光した作品で、当時の個展および『アサヒカメラ』誌上で発表後、37 年もの間忘れ去られていた幻の大作である。“光学的事件”を追求した作家の

屋外型国際写真祭『T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2023』

イベント『山崎博上映会&トーク』開催のお知らせ 3/6

到達点であり、その鮮烈な視覚体験は発表後 40 年を超えた今日でも色あせることがない。

会期：10 月 3 日（火）～10 月 29 日（日） 11:00～18:30（月曜日休館）

*10 月 27 日（金）は 20:00 まで

会場：国立映画アーカイブ 1 階ロビー（東京都中央区京橋 3-7-6）

アクセス：東京メトロ銀座線京橋駅出口 1 から昭和通り方向へ徒歩 1 分、都営地下鉄浅草線宝町駅出口 A4 から中央通り方向へ徒歩 1 分、東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅出口 7 より徒歩 5 分、JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩 10 分

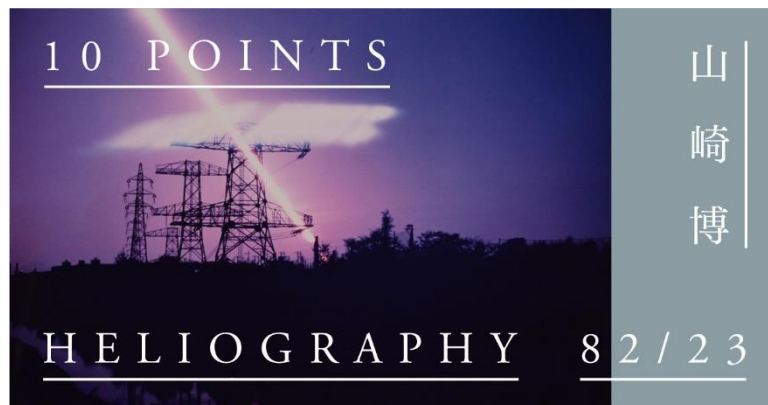
<https://www.nfaj.go.jp/visit/access/>

入場料：無料

出展作家：山崎 博

キュレーター：石田 哲朗（東京都写真美術館 学芸員）

共催：国立映画アーカイブ、一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY



◆萩原朔美展『70's Experiments』

企画名：萩原朔美展『70's Experiments』

内容：国立映画アーカイブのロビーで開催される山崎博写真展『10 POINTS HELIOGRAPHY 82/23』と連携し、山崎の高校時代からの親しい友人でもある映像作家・萩原朔美の 70 年代の実験的な映像作品を展示する。展示作品は《TIME》、《KIRI》、《BUTTERFLY》、《日曜日に僕が見たもの》、《DRAMA》。なお、10 月 21 日（土）には、国立映画アーカイブにて『特別上映会 山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク』を開催する。

会期：10 月 17 日（火）～10 月 28 日（土）（月～土: 11:30～19:00）※最終日は 17:00 まで

会場：art space kimura ASK?（アートスペースキムラ アスク）

（東京都中央区京橋 3-6-5 木邑ビル 2F）

アクセス：東京メトロ銀座線「京橋駅」2 番出口より徒歩 1 分

都営浅草線「宝町駅」4 番出口より徒歩 2 分

<https://asku.sakura.ne.jp/ask/access/>

入場料：無料

出展作家：萩原 朔美

協力：art space kimura ASK?

萩原朔美 展
70's EXPERIMENTS



◆『T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2023』開催概要

名称：屋外型国際写真祭『T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2023』

会期：2023 年 10 月 7 日（土）～29 日（日）

会場：東京駅東側エリア（八重洲・日本橋・京橋）

東京スクエアガーデン、東京ミッドタウン八重洲、JR 東京駅（八重洲中央口改札外 グランスタ八重洲）、国立映画アーカイブ、TODA BUILDING 工事仮囲、東京建物八重洲ビル、東京建物日本橋ビル、東京建物八重洲仲通りビル、大丸東京店、BAG-Brillia Art Gallery- + 2、art space kimura ASK?、72Gallery 他

入場：無料

主催：一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY

主管：株式会社シー・エム・エス

企画：T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 実行委員会

特別協賛：TOKYO SQUARE GARDEN、東京ミッドタウン八重洲、東京建物株式会社、戸田建設株式会社

協賛：一般社団法人東京ステーションシティ運営協議会、中央日本土地建物株式会社、大丸東京店

協力：国立映画アーカイブ、東京地下鉄株式会社、株式会社 POD、株式会社フラットラボ、公益財団法人彫刻の森芸術文化財団、株式会社クオラス、株式会社写真弘社、有限会社フォトグラファーズ・ラボラトリー、株式会社ゆめみ

後援：京橋一の部連合町会、京橋三丁目町会

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】

在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ

※協賛企業社名は現時点の情報です。更新される可能性があります。

※各会場の休館日や開館・閉館時間などは、各施設の公式サイトをご確認ください。

※展示の詳細などは、イベント公式サイト（<https://t3photo.tokyo/>）を ご確認ください

◆屋外型国際写真祭『T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO』とは？

2017年の開始から今回で5回目を迎える『T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO』は、世界的にも珍しい大都市の中心で開催される「屋外型国際写真祭」です。メインの舞台となるのは東京の【八重洲・日本橋・京橋】。中でも八重洲・京橋は、東京駅や銀座、日本橋に挟まれた絶好の立地にも関わらず、多くの人にとってオフィス街のイメージがあります。しかし、その歴史を紐解くと、江戸時代には城下町として文化が栄え、明治、大正、昭和と多くの文化人が足しげく通ったエリア。現在も江戸時代から続く老舗や、150以上の古美術商や画廊が存在するなど、都内有数のアートの集積地として高いポテンシャルを秘めています。世界水準のアーティストたちによる作品展示やパブリックプログラム、さらには、日本国内14の美大・専門学校と協力し開催する「STUDENT PROJECT」を通じて、同エリアが「次世代の写真文化を育むアジアのハブ」となることを目指し開催しています。



◆一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY(T.I.P.)について

| 写真の未来を語り、交流する場所の創造

一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY (T.I.P.) は、(1) 教育事業、(2) アーティストインレジデンス (AIR) 事業、(3) 地域文化事業という3つの事業を柱に活動を行う一般社団法人です。写真展示ギャラリーや、会員向けライブラリー、撮影スタジオなどの設備を持ち、写真文化と地域への貢献をミッションに活動をしています。

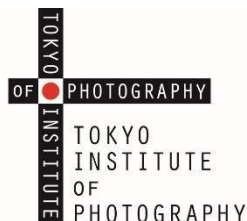
会社名：一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY

創業：2010 年 08 月

所在地：東京都中央区京橋 3-6-6 エクスアートビル 1F

電話番号：03-5524-6994

HP：<https://tip.or.jp/abouttip>



【本件に関するお問い合わせ（掲載・露出不可）】

本フェスティバルのディレクターであり創設者である速水惟広や、展示キュレーター（後日発表）への「インタビュー」、開催会場での「撮影取材」についても調整可能です。是非、お気軽にお問い合わせください。

画像素材⇒ https://drive.google.com/drive/folders/1CnXS0ki2-vjYrstm8Nvjfl_KNrbphmKx?usp=sharing

〔1〕 広報全般のお問い合わせ

株式会社ロールアップ 広報担当：岩田（いわた）

MAIL： iwata@rollup.day / MOBILE：070-9027-2815 /

〔2〕 展示企画、キュレーター等への取材はこちら

株式会社シーエムエス 東京（京橋）本社 担当：堤谷（つつみたに）

TEL：03-5524-6991 / FAX：03-5524-6992 /

MAIL： hana.tsutsumitani@cmsinc.jp
